

Where Spirits and Fairies Dwell

まほろばのこだま

ののさまたらが目と覚ます



「文化芸術による子供育成総合事業 — 巡回公演事業 —」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や、国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

わたしがかわせみ座に強く惹かれるのは、その技量とところざしの高さに
よります。

上からぶらさげただけの人形たちを血の通う生きた存在と感じさせるには、
驚くべき力量が必要です。見つめるに値する優れたキャラクターを作り、自在
に演技させうる機能を与え、さらにそれを的確な演技で使いこなす。この三拍
子が揃わなければ、人にその存在を信じさせることなど思いもありません。
ストーリーにもセリフにもセットにもよりかからず、人形たちの行動だけで何
をしているかを悟らせ、その心を感じ取らせ、さらには、パントマイムや狂言
のように、まわりにあるはずの見えない存在や空間さえ、眼前にありありと現
出させようというのが、かわせみ座の心意気です。

やまとは くのにまほろば

たたなづく あおかき やまごもれる
畳 青垣 山籠

やまとし うるはし

ヤマトタケルノミコト (古事記)

まほろばのこだま

ののさまたちが目を覚ます



あおあお かき かき あ みどりこ やま
青々とした垣のように重なり合う緑濃い山にかこまれたところ。じぶんたち
を抱いてくれる美土地。母の胎内のようにやすらげる、山ごもった「まほろば
(まほらま)」。昔から人々はそういうところに好んで住み、その自然を相手に
生活を営んできました。そしてこの「まほらま」のふところ、その山や川、田
畑や家屋敷には、人間や動物だけでなく、さまざまな小さき神々(ののさまた
ちや木霊)が暮らしているとわたしたちの祖先は信じ、その気配を敏感に感じ
取って姿を思い描き、畏れ崇めたのです。

かわせみ座は、これらの小さき神々をリアルに、楽しく、また詩的に舞台に
よみがえらせる努力をつづけてきました。山から下りてくる花鬼ぐじとごべの
コンビ、座敷童子の雛子、おコン狐、烏天狗の呵と酌、童子をめぐる雪狼と雪女郎
などです。

『まほろばのこだまーののさまたちが目を覚ます』は、2000年、これらの
小品をまとめ、わたしたちが忘れかけている「小さき神々」の気配をもっと身
近に感じ、心によみがえらせることを願って本格的に練り上げたものです。
お手伝いとして参加したわたしの要求は三つ、わたしたち人間の代表として生
身の子ども役を配すること、わらべうたを活用すること、身近なもうひとつの存
在として小動物を出すことでした。そして舞台に一貫性と強い求心力をもたせ
ようと、スタッフ・キャスト一丸となって稽古に励みました。

さいわい初演は高い評価を頂き、以来今日まで、新たな工夫を交え、さらな
る充実を心がけています。海外でも公演を行い、好評を得ました。

あとはただ、みなさまに人形たちを(操演者を忘れて!)食い入るように見つ
めてくださることをひたすらお願いするばかりです。そうすれば、「ののさま」
たちはきっと生きた存在となって躍動し、必ずやあなたの心に宿ることでしょう。



<プログラム>

*プロローグ

ゆづく とき すけ
夕暮れ時--- いたちのチョ口助

ひとごと はなおに
*人里---花鬼のぐじとごべ

いありばた ざしきわらし ひなこ
*田炉裏端---座敷童子 雛子

あきまつ きつねむすめ へんげ
*秋祭り---狐娘の変化

やまがみ からすてんぐ か しやく
*山神---烏天狗の呵と酌

ふぶき なか ゆきへんげ
*吹雪の中で---雪変化

*エピローグ

せつげん あさ すけ
雪原の朝--- いたちのチュイとチョ口助

さくひん きつねもり たち こ
*ワークショップ作品『狐森のキツネ達と子いたち』

にんぎょう つか せいたち とも ぶたい せせ
~人形やオブジェを使って、生徒達と共に舞台を遊ぶ~

ひと ともだち ひとごと
人と友達になりたくて、山から人里におりてきた
花鬼のぐじとごべ。人間は気づいてくれるでしょうか。



まつ ばやし ささき
祭り囃子に誘われて、狐のコンがあらわれる。
娘に化けて、舞い踊る。狐 娘の華麗な舞をごらんあれ！



狐森のキツネ達と子いたちのチュイ

<キャスト>

にんぎょうそうえん やまもとよしや ますむら いづみ
人形操演/山本由也・益村 泉

むらべたち やまざわ さと みくにや はな おまた
童子達/八木澤賢・三国谷花・脇田あやこ

<スタッフ>

さく げんあん やまもとよしや ますむら いづみ
作・原案/山本由也・益村 泉

こうせい けんしやつ たかほた いさお やまもとよしや
構成・演出/高畑 勲・山本由也

ふるつ ますむら いづみ
振付け/益村 泉

にんぎょううけつけ おたいげいせつ やまもとよしや
人形美術・舞台美術/山本由也

しょうめい やまねかやすのり たなか かつのり
照明/山岡靖典・田中克典

おんきやう かじむら ゆかこ
音響/梶原由佳子

ぶたいかんとく らせづきやすひこ
舞台監督/望月康彦

ぶたいかんとくじよしや はらのうちやすたか
舞台監督助手/萩之内康孝



やま かみ つゆ からすてんぐ か しやく
山の神に仕える烏天狗の呵と酌。
欲望を抑えられない酌は、いつも呵にしかられる。

【かわせみ座】代表の山本由也は、日本の伝統的な系操りの「竹田人形座」（東京都無形文化財）を経て、人形を使った新しい舞台表現を創り出すために1982年にかわせみ座を創立。

アーティスト・ドールとしても通用する洗練された人形美術、型にはまることのないオリジナルな操作構造は人形たちに自然で自由な動きを与え、見る人を驚かさずにはいない。現在、バレエやミュージカル、ストレートプレイなどの俳優の経験を持つ益村泉と共に独自の舞台芸術としての人形を遣った空間パフォーマンスを発表し続けている。

国内はもとより『UNIMA 世界人形劇フェスティバル』をはじめハンガリー、カナダ、スペイン、アメリカ、イタリア、メキシコ、香港などといった海外のフェスティバルに招待され高い評価を得ている。

【かわせみ座海外公演歴】

- 1986年 韓国ソウル 国際人形劇フェスティバル（招待公演）
- 1988年 台湾アジア・太平洋国際人形劇フェスティバル（招待公演）
- 1991年 イラン（テヘラン）世界人形劇フェスティバル（招待公演）
- 1996年 ハンガリー（ブダペスト）ユニマ・世界人形劇フェスティバル（招待公演）
- 1996年 ハンガリーBEKESCSABA 国際人形劇フェスティバル（招待公演）
- 1996年 カナダ（モントリオール）シーナル96 世界舞台芸術見本市 エントリー公演
- 1997年 スペイン（トロサ）国際人形劇フェスティバル（招待公演）
- 1999年 アメリカ（マリブ）ペッパー・ダイン大学（招待公演）
- 1999年 アメリカ（シアトル）インターナショナル・チルドレンズ・フェスティバル（招待公演）
- 2001年 アメリカ（セントポール）インターナショナル・チルドレンズ・フェスティバル（招待公演）
- 2002年 香港アートフェスティバル（招待公演）
- 2002年 モロッコ・チュニジア・イスラエル公演（日本大使館・国際交流基金主催 公演）
- 2003年 韓国ソウル・チョンドン・シアター公演
- 2005年 イタリア（ラヴェンナ、カンピリアマリッティマ）、スコットランド（エジンバラ）公演
- 2007年 香港アジア人形劇シリーズ公演
- 2008年 メキシコツアー（三都市公演）
- 2012年 中国（成都・南充）ユニマ・世界人形劇フェスティバル（招待公演）
- 2013年 アメリカ（ナッシュビル）国際人形劇フェスティバル（招待公演）
- 2015年 リトアニア・エストニア 国際人形劇フェスティバル（招待公演）
- 2016年 アメリカ（ナッシュビル）国際人形劇フェスティバル（招待公演）

知ってますか？ ～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。